



2010年 新春のお喜びを申し上げます。

センター職員一同、「丑ろ」を振り返らず、新たな気持ちで「虎い」してまいります。

今年の重点目標は、

1. 研修講座の更なる充実
2. しまね学習支援プログラム（親学）の普及

と掲げます。本年もよろしくお願いいたします。



研修報告①

専門研修 コミュニケーション・プログラム実践講座 (学校支援地域本部 地域コーディネーター研修)

「研修を受ける」のではなく「研修に参加する」という気持ちが必要だと、参加者全員に考えさせるために、いきなり休憩から始まったこの講座。コミュニケーションのいわゆる「ハウ・ツー」ではなく、「I will...」という主体的な態度や、ゲームをすることで縮まる人との距離など、コミュニケーションの楽しさや難しさを感じながらそのポイントについて考えていきました。



- 声**
- ◆知らない人・知っている人とつながることの楽しさや気持ちよさを体感した研修でした。心の壁も低くでき、自分を見つめる時間となりました。
 - ◆自分自身の壁を取り払うこと、愛情を持って接すること、とても当たり前のことが当たり前にできていなかった自分に気づきました。
 - ◆今までの研修とは違った、頭も体も軽く、みんなで協力してコミュニケーションを得ながらの1日。楽しく、大変有意義でした。

研修報告②

専門研修

プログラム立案実践講座

現在それぞれの公民館で取り組んでいる事業について、ねらいを意識しながら年間計画を組み替えたり、少人数でテーマを決めて、実際に取り組めそうな個別事業を考えたりしました。

研修で作成した学習プログラムの一つ。



- 声**
- ◆最初は大きな作業だなと感じましたが、立案のための準備が出来上がっていくうちに、「大変」から「大事な」に変わりました。
 - ◆今までの講座・事業などを振り返り、今後の事業の方向付けがうまくできていないように思いました。良いきっかけ作りになりました。

個別事業計画(学習プログラム)を立てよう

回	学習テーマ	学習内容と方法	講師・学習支援者	備 考
(1) 事業名	クッキングJRLI養成講座			
(2) 事業の目的	団塊の世代が地域に出るためのきっかけ作り			
(3) 対象者・定員	団塊の世代(男性) 定員15名			
(4) 期間・回数・時間	6月～12月までの全6回 (1回につき約3時間)			
(5) 学習場所	公民館他			
(6) 学習目標	・仲間作り ・地域との繋がりを広げる ・料理に親しむ			
(7) 連携団体等	・保育園・幼稚園・消防署・市役所等			
①	誰でも作れる簡単おいしいおつまみ	冷蔵庫に残っている食材でも簡単においしい料理が作れる事を知る <メニュー> 酒の肴	一般女性	6月9日9時～12時 講師の連絡先等 参加料1500円徴収
②	誰でも作れる健康おいしい料理	栄養士に話を聞いて自分の食生活を振り返る 同じ食材を使って異なる調理方法でメニューを出せることを実習する	栄養士	7月9日9時～12時 講師の連絡先等
③	誰でも作れるアウトドア料理～防災編～	消防署員に防災に関する心構えを聞く / 身近な物で鍋を炊く(アルミ缶) / 炊き出し用鍋料理(芋煮等)	消防署員 婦人会(サポート)	9月9日9時～12時 講師の連絡先等 場所: 公民館の外 食材持ち寄り
④	いざ 文化祭へ!!	地域の文化祭時に9月の講習で学んだ炊き出しの技術で大鍋を振舞う	買出し等 公民館職員	10月9日8時～13時 公民館文化祭 1杯100円 アンケート
⑤	誰でも作れるアウトドア料理～お菓子編～	野外でも簡単に作れるお菓子作りを学ぶ <メニュー> 炭焼きバームクーヘン アイスクリーム	公民館職員	11月9日13時～16時 場所: 公民館の外 味見役で近所の子供を招待
⑥	いざ クリスマス会へ!!	前回学んだお菓子作りを保育園・幼稚園のクリスマス会で披露		12月9日9時～12時 場所: 保育園・幼稚園 アンケート (文化祭の収益で材料費を賄う)

事業の目標(評価の視点)

○ 文化祭やクリスマス会に意欲的に参加する

研修報告③

課題別研修

子どもの育ちと安全管理・安全対策

(放課後子どもプラン 指導員・ボランティア研修)

講師の清國先生からプレーパーク(冒険遊び場)での実践を通した話を聞き、子どもたちの育ちを見守りながら、どう安全管理に取り組むのかについて考えました。「リスク」を乗り越えることで得られる体験(「リターン」)。この「リスク」と「リターン」のバランスに加え、保険や親への対応も念頭におきながら、よりよい子どもの育ちについて話し合うことができました。

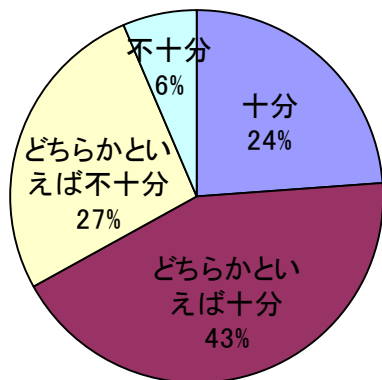


声

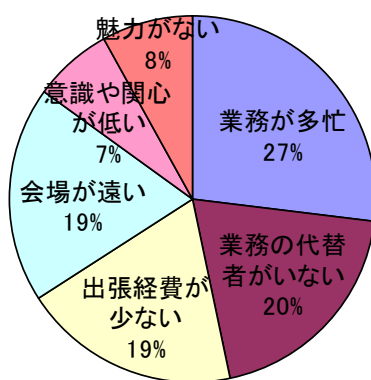
- ◆子どもにとって何が大切なのか。どうすれば将来大人になった時に役に立つのか。危険を最初から取り除くのではなく体験をさせていく上で学ばせる事は、親だけではなく、地域の大人が重要な役割を担っていると、改めて考えさせられた。
- ◆消費者意識から当事者意識に保護者を変えていくこと、とても大きなエネルギーを伴いそうだが、子どものためにも言葉がけから始めていこうと思う。

アンケートへのご協力 ありがとうございました

研修の機会は十分だと思いますか？



研修を受講する際に障害となるのは？



年末のお忙しい時期に、当センターのアンケートにご協力くださり、ありがとうございました。

皆様からいただいたご意見を参考に、22年度のセンター運営を行っていきたいと思います。

なお、アンケート結果の詳細は後日送付させていただきます。

回答率 66 %

館長 : 75名
主事等 : 102名
行政 : 16名

館長が学びたい内容ベスト3

1. 地域課題の把握
2. 公民館の運営や役割
2. 高齢化社会とまちづくり

主事等が学びたい内容ベスト3

1. 高齢化社会とまちづくり
2. 住民参画と協働のまちづくり
3. 公民館職員の任務や役割

行政として重視したい内容ベスト3

1. 社会教育の基本・県の動向
2. 社会教育職員の任務や役割
3. 社会教育計画・事業計画の立案

市町のひろば

電子映像メディアと子どもの育ち～地域ぐるみの子育て体制の構築～

益田市教育委員会 品川智成

テレビ、ビデオ、テレビゲーム、パソコン、ケータイなど電子映像メディアの急速な普及によって、子どもたちの生活の様子は大きく変わってきました。そのため、子どもたちはその時々々の発達段階において豊かな感性を育み、獲得すべき能力を身につけるための大切な時間と機会を失っています。

益田市教育委員会では、この問題を喫緊の課題としてとらえ、子育て支援課や警察署、市民グループ等関係機関・団体と連携を図りながら、まずは「知ること(学習)」からスタートし、「意識すること(啓発)」に向けた取組を推進しています。学校や地域における研修会の支援をはじめ、社会総がかりの取組を目指して「地域で育む益田の子推進協議会」が中心となり、啓発活動を展開し、現在、ノーメディア・アウトメディアに関する標語コンクールを実施しているところです。

実践化に向けては、学校・家庭・地域が力を合わせ、三者が連携した取組が効果的です。放課後子どもプランとも関連させながら、今後はさらに、「具体的に動くこと(実践)」に向けた取組に発展させ、地域ぐるみで将来を担う子どもたちを育てていきたいと考えています。